

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局 指導普及課
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成24年8月発行 No.34号



ゴバンノアシ

森林観察会のお知らせ (10月開催予定)

日本でも最大規模のマングローブ林に代表される亜熱帯の原生的な自然を有する西表島の貴重な森林生態系と生物多様性を理解し、西表島の森林が未来へ残すべき素晴らしい森林であることの認識を深めてもらうことを目的に森林観察会を開催します。

第1回の観察会を、西表島の浦内川支流のウトラ川上流に生育する「森の巨人達100選」に選定されている「ウトラ川のオヒルギ」を訪れ保護活動の取り組みと生育状況の観察と浦内川遊歩道の植物観察を西表島巨樹・巨木保全協議会、沖縄森林管理署、西表森林環境保全ふれあいセンターの三者主催で10月27日(土)に開催を予定しています。

「森林観察会」への問い合わせ

西表森林環境保全ふれあいセンターまで

TEL 0980-88-0747



竹富町立船浮小中学校春の遠足を支援 (森林環境教育)

5月2日(水曜日)、竹富町立船浮小中学校の春の遠足を森林環境教育の一環として支援しました。

自然に親しみ、普段の学習ではできない体験をし、集団の決まりを守り、お互いに協力する態度を育てることを目的に、全校児童3名と教職員3名は西表島西部を流れる仲良川を船で移動し、歩道を30分ほど歩き目的地のナーラの滝を目指しました。当日は梅雨の晴れ間のさわやかな日中に恵まれ子供達は、滝周辺での



みんなで森林のクイズ

水遊びや水中生物の観察を楽しんでいました。また、当センターで作成した森林クイズでは、植物の名前の由来や特徴について、先生と一緒に答えを考え勉強していました。

また、マングローブ林では、船を操船された池田さんから、シレナジミのを見つけ方を教わり砂泥に足を取られながら目をこらし必死に探していました。参加した児童から日頃は体験する事が出来ないことができて楽しかった。森林のクイズで植物の名前の由来など森林について学ぶことが出来た。との感想があり、みんな元気に学校へと帰っていきました。

仲間川木道周辺のモニタリング調査を実施

5月18日(金)に仲間川支流の北舟付川(ニジナツガワ)の木道周辺に設定したマングローブ林のモニタリング調査を実施しました。

調査項目は、立木の生育状況を含めた毎木調査、砂泥の移動状況を調べるための地盤高調査、林内の光環境調査、砂泥地の塩分濃度調査そしてデジカメによる定点観測撮影を実施しました。

調査地のオヒルギ等生立木に大きな変化はみられませんでしたでしたが、全体的に樹冠の密閉度が高まっているのか光環境の指標である開空度の数値が、調査開始以来最低の21.5%を記録しました。この影響もあって林床に見られるはずの稚樹の発生がわずか数本という状況になっていました。



オヒルギの樹冠は先端がなかなか見えません。

ヒナイ川・西田川の利用状況調査報告

5月期のヒナイ川流域における利用状況調査を5月25日(金)に実施しました。



賑わうヒナイ川係留地

結果は、カヌーツアーが8組(ガイド含め27名)でした。ガイドを除く利用者は男性10名、女性9名でほとんどが県外からの若者のグループでした。なかにはスイスからの夫婦もいました。

八重山地方は梅雨の時期ですが、当日は晴天で西表島は今年の最高気温31度となり、カヌーツアー日和となりました。滝壺に入った利用者は「気持ち良かった」と感想をもらしていました。

道路沿いには鮮やかな黄色いハネセンナの花が開花していました。また、ツルアダンやコミノクロツグの花も咲き、周りに甘い香りを漂わせていました。

6月期の利用状況調査を西田川は6月10日(日)、ヒナイ川は25日(月)に実施しました。西田川は今回、休日に実施しましたが、調査日は梅雨の時期、終日激しい雨で利用者はありませんでした。昨年同期は、ツアー数3組、入林者数11名(ガイド含む)でしたので、今回の利用者数ゼロは寂しいものがあります。

一方、ヒナイ川はカヌーツアーが21組(ガイド含め91名)、レンタルツアーが1組(2名)の計22組(93名)と調査開始後の6月としては最高の入り込み者数となりました。なかには北海道からの旅行者も3組12名いて、南国西表島の自然を存分に楽しんでおられました。

さて、八重山地方は6月23日(土)に梅雨も明け、連日、真夏日で暑い日が続いていますので水分をこまめに補給して十分な熱中症対策をお願いします。

「サキシマスオウノキ(仲間川)」のモニタリング調査を実施

5月29日(火)に、森の巨人たち百選に選定されている仲間川のサキシマスオウノキのモニタリング調査を実施しました。

当日は、天候にも恵まれ、観光客の姿もそう多くない中で、サキシマスオウノキの生育状況、周辺の光環境の変化、林床植生や着生植物の推移、土壌硬度測定、枝張りの変化について調査を実施しました。

前回、樹高が約1m短く計測されたサキシマスオウノキでしたが、今回は23.1mを記録し、これまでと同じ高さに回復しました。また、光環境の変化を示す開空度率が全体平均で15.2%と、これまでの最低値を記録しまし



林床植生を調査中

た。これらのことから、昨年秋以降、樹冠を含むサキシマスオウノキ全体が順調な生育をしているものと思われる。

そのほかの林床植生、土壌硬度、枝張り等には大きな変化は見られませんでした。

漂流・漂着ゴミの実態調査

6月期の漂流・漂着ゴミの実態調査を6月29日(水)に実施しました。



調査プロット回収ゴミ

各地区とも、先月の調査時と比較して大きな変化はありませんでしたが、南風見田地区だけは漂流・漂着ゴミが増加していました。海岸の砂もかなり流失していました。6月中旬に近海を通過した台風の影響ではないかと考えられます。

本年4月に設置した調査プロットにおいて第1四半期漂流・漂着ゴミ回収作業も実態調査にあわせて実施しました。ユチン地区のゴミは僅かな量に止まり予想より少ない結果となりました。船浦地区は、浮き球等漁具の漂着物が確認されました。今後データの解析を進めて行くこととしています。

船浦ニッパヤシ群落のモニタリング調査を実施

6月4日(月)、5日(火)の両日、船浦ニッパヤシ群落のモニタリング調査を実施しました。

今回は、ニッパヤシの葉長調査、光環境の変化、そしてニッパヤシの小葉調査を実施しました。

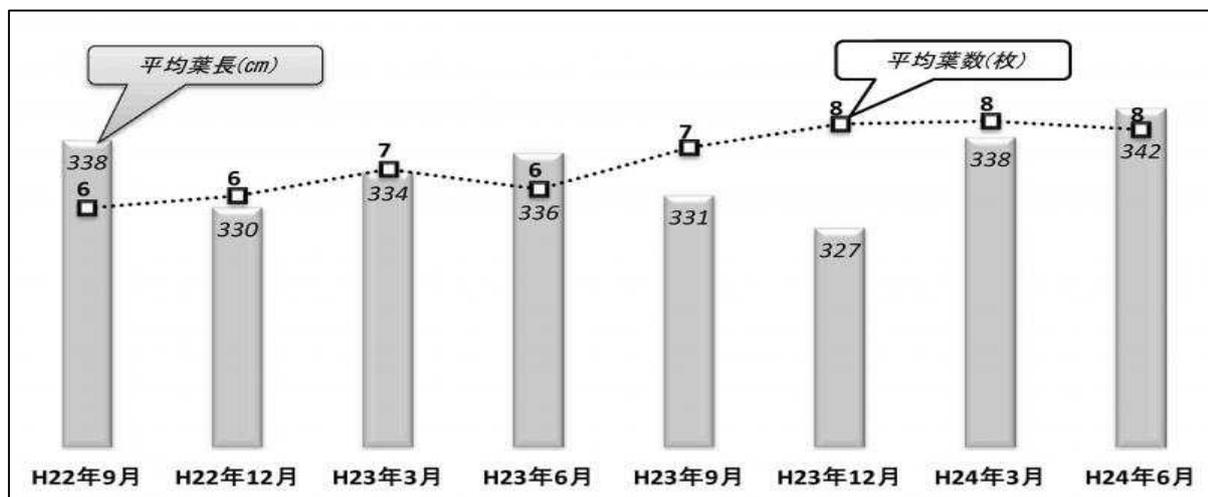
ニッパヤシの1個体当たりの葉数は、最小で5枚、最大で17枚となり、平均しますと1株当たり約8枚の葉数で構成されています。これは、ニッパヤシの株数を43株で区分した平成22年9月期の平均7枚と比較すると1枚程度増加しました。

また、葉長は全体の平均では342cmですが、内陸部に生育するニッパヤシ群の平均葉長は287cm、川沿いや川中に生育するニッパヤシ群の平均葉長は350cmとなり、生育している位置により格差が生じる結果となっています。

いずれの株も、その成長具合に差はありますが、幼葉の出現も確認出来ていることからその成長は順調に推移していると考えられます。光環境の変化については、前回とほぼ同じ結果が得られ、小葉調査については29枚のデータを記録しました。これについては今後、分析していくこととしています。梅雨期の西表島でしたが、両日も雨に降られることなく調査を終了することが出来ました。梅雨期の西表島でしたが、両日も雨に降られることなく調査を終了することが出来ました。



葉長調査の風景



ニッパヤシ株の葉数・葉長の推移グラフ(43株で区分)

「自然環境教育推進のための連絡会」を開催

6月11日(月)、西表島船浦の活性化施設(ときめきホール)において、「自然環境教育推進のための連絡会」を西表島内の各小・中学校の先生に出席頂き開催しました。

今回の連絡会は、4月の異動等により新任の担当者等の先生に対して、西表島における自然環境教育プログラムの実施に当たって、「西表島での自然環境教育カリキュラム改訂版」の周知を図る目的で開催したものです。

連絡会では、今年度、既に自然環境教育プログラムを活用して実施した事例及び今後の活用計画等の報告が出されました。

当センターとしては、皆様からの要望等に応え、「西表島での自然環境教育カリキュラム改訂版」を大いに活用いただくよう取り組んでいきたいと考えています。



連絡会の開催

西表島の植物

ホコバテイキンザクラ (鉾葉提琴桜)

- ◇ **学名** : *Jatropha hastata* Griseb
- ◇ **科名** : トウダイグサ科
- ◇ **特徴** : 樹高は1メートルから3メートルで、枝はやや下垂し、楕円形で先の尖った葉がつき、一部の葉っぱが鉾葉状(ホコの形をしている)になるものがあり、ホコバテイキンザクラ・テイキンザクラと区別している。枝先に繖状花序(柄のある花が花茎に均等につく)を出し、花径2、3センチの5弁花を数輪つける。花の色には濃い紅色や桃色、橙色などある。花の後にできる実はさく果(熟すると下部が裂け、種子が散布される果実)である。「提琴」というのはバイオリンのことである。葉をバイオリンに見立て、花を桜(サクラ)に見立てたのが名の由来である。花の色が綺麗なので沖縄では庭木として植えられている木である。
- ◇ **分布** : 琉球列島 西インド諸島
- ◇ **開花** : 3月~11月、暖地では周年

